

学校再編についての住民説明会

日 時：平成28年 7月24日(日) 午後2時00分～3時26分

会 場：青生コミュニティセンター

出席者：住 民 22人(男16人、女6人)

教育委員会 委員長 後 藤 眞 琴

委員 留 守 広 行

委員 千 葉 菜穂美

教育長 佐々木 賢 治

教育次長兼教育総務課長 須 田 政 好

教育総務課課長補佐 早 坂 幸 喜(司会・進行)

《課長補佐(早坂)》

学校再編についての住民説明会というご案内をしておりますが、教育委員会の現在の考え方について御説明をいたしまして皆さんの意見を聴く会というふうに捉えていただきたいと思えます。よろしくお願ひします。それでは開会に当たりまして、教育委員会後藤委員長から開会の挨拶を申し上げます。

《委員長(後藤)》

皆さん、こんにちは。メモを見てお話しすることをお許してください。小中学校の再編につきましては以前から教育委員会の懸案事項でありました。教育委員会では小中学校の再編につきまして、平成26年4月の定例会から継続協議にして協議を重ねてまいりました。そして、平成28年6月の定例会におきまして小中学校の再編についてまとめた美里町学校再編ビジョンを策定いたしました。今日は最初に教育委員会が現在考えている美里町学校再編ビジョンに沿った具体的な取組について簡潔にご説明申し上げ、次にそれに対する皆さんの率直な御意見、お考えをお聞きし、そして皆さんと意見を交換しながら将来の美里町の学校の在り方について考えていく一歩としたいと考えております。お配りしました学校再編住民説明会の開催についてという資料にもありますように、皆さんに今日ご説明申し上げる教育委員会が現在考えている再編ビジョンに沿った具体的な取り組みは、これからできる限り皆さんの御意見、お考えをお聞きし、皆さんと意見を交換しながら、共に将来の美里町の学校の姿のよりよいものを考え出して最終決定していくためのたたき台でございます。詳細につきましては教育次長から申し上げます。皆さんの率直な御意見、お考えをよろしく申し上げます。

《課長補佐(早坂)》

説明に入る前に、本日皆様の方に説明をするために出席しております教育委員会の委員、職員を自己紹介で紹介させていただきたいと思ひます。

(出席者6人が自己紹介をする。)

《課長補佐（早坂）》

それでは、早速ですが学校再編についての概要を須田教育次長から説明させていただきます。

《教育次長（須田）》

それでは私の方から説明をさせていただきます。説明に入る前に皆様にお配りをさせていただいております資料の確認をお願いします。資料は3部になります。次第が1枚と、その下に何枚かを左上で綴じた説明会のお知らせというのがあります。それからもう一枚は、説明会の説明資料として、昨日の午後の会場から追加資料として追加で配布しています。昨日の午前中の説明会でご指摘を受けまして、児童の推移もあった方がいいだろうというご意見をいただきまして、午後の説明会から追加した資料でございます。この3部ありますでしょうか。それでは説明につきましては、何枚か綴じています学校再編についての住民説明会と書いてあるこちらの資料を使って説明をさせていただきます。学校再編についての説明会というタイトルであります。先ほど司会の者からも申し上げましたように、昨日の会場でご指摘を受けまして、説明会という決まったことを一方的に説明に来たのかとみんな思ってしまったということで、まったくタイトルの付け方を間違いました。説明もしますが肝心なのは、こういった教育委員会の考え方に対する皆さんの御意見を聴く場であります。意見交換会という意味合いが十分にありますので、住民皆さんとの意見交換会という、名称はそのような意味でございます。今後は名称についてもしっかりとわかりやすく意味のある内容にしていかなければと反省をしております。1枚目のチラシといいますか、こちらは広報みさとの7月1日号に掲載をしております。周知用のチラシにつきましては2つの目的があります。1点目は、昨日から開催していますが、町内8か所の住民説明会を皆様にお知らせするということです。この下段、下の表にそれぞれの会場と開催の日程日時を記載しております。昨日23日、今日24日、それから来週の土曜日と三日間にわたりまして小牛田地区5か所、南郷地区3か所の計8か所で住民皆さんとの意見交換会を行うこととお知らせし、そして参加していただくためのチラシであります。本日午前中は駅東地域交流センターで行ってまいりました。午後からは、この青生コミュニティセンターで5か所目ですが開催しております。なお、今日ですね、聴き忘れたところとかあるいはもう少し発言をしたいという場合には来週に南郷地域の3か所で開催しますのでどうぞそちらの方にも足を運んでいただいて結構であります。納得いくまで説明を、あるいは意見等を述べていただきたいと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。それから2つ目は真ん中（中央部分）には、今教育委員長がお話ししましたように現在の教育委員会の基本的な考え方、将来の美里町の学校の姿、それをまとめました学校再編ビジョンというのがあるのですがそちらの方の骨子の部分を2行、3行で書いております。中学校の再編については、現在の3つの中学校を1校に再編すると、目標ではございますが平成33年の4月開校を目標にめざしていきたい、というのが1つです。それから小学校については、こちらの方につきましても将来的には1校にしたという考えであります。その経過措置としまして中学校区ごとに

まず1校に再編し、その後に3校を1校にするというのが教育委員会の考えであります。このような内容をこのチラシ、あるいは広報の記事を通して町民の皆様にお伝えしたいということです。この資料一式については事前に各会場に置かせていただき配布しております、また、そのほかに幼稚園、小学校、中学校の園児、児童、生徒の皆さんに、お子さんに家庭に持ち帰っていただく形で各世帯に配布をしております。ある会場でご指摘ありましたが、保育所のお子どもたちにも持ち帰らせればよいのではないかというご意見をいただきました。この次からは保育所のお子さんの各家庭にも配らせていただき、より広く周知をしていきたいと思っております。これ1枚をめくっていただきまして、2枚目については教育委員会から住民の皆様へということで、先ほど教育委員長が述べましたものを文面で簡単に書いたものであります。内容の説明は省略させていただきます。めくっていただき、3枚目以降、ここからページをふっています。1ページから6ページまで、学校再編についての説明会の資料であります。本日この資料について簡潔にご説明させていただきます。別途お配りしました次第と重複する部分もありますが開会の挨拶の後に説明ということですが、6つのポイント、6つの説明内容に分けて資料も作成しております。この6つのポイントをこれからお伝えしたいと思っております。1つ目は、中学校の再編をなぜ行うのか、2つ目はどのように再編するのか。①と②につきましては中学校の再編について記載しております。次に③と④は小学校の再編について同じように、なぜ小学校の再編が必要なのかと、そしてどのように再編するのかということを書いてあります。5点目はそれぞれの再編に伴います事業費、費用のお話をしたいと思っております。そして最後の6点目は今後の取組についてお話をさせていただきたいと思っております。それでは1枚目をめくっていただきまして、2ページの①、なぜ中学校の再編を行うのかということ再編の理由について教育委員会の考え方を書いてあります。さまざまな再編に向けての要因、理由等がありますが、その中から主な理由として2つ、まず生徒の減少が進んでいるということです。それからもう1つは学校施設の老朽化が進んでいるということです。率直にストレートに申し上げますと、資料の一番後ろに、各学校の建築した年度とから、あるいは建築してから何年経っているかという資料もつけております。その下に中学校の3校について掲載しておりますが、小牛田中学校ではもうすでに51年、不動堂中学校で46年が経過しています。この2校についてはかなり古くなっています。今、現在は修繕をしながら生徒の安全を保ってきておりますが、今後ですね、これがいつまで使用できるのか、今このまま何もせずに修繕だけを繰り返してやっていけるのかという問題があります。この2校が古くなってきているので、なんとか両校を大規模改修して直すのか、あるいは新しく立て直すのか、何かの手立てをここ5年、あるいは10年、この期間中に何かをしななければならないと思っています。このまま放っておくことはできないということです。それと子供たちの数が減ってきますので、それぞれの学校、小牛田中学校、不動堂中学校を建替えすれば一番よろしいのですが、町の財政にもかなりの制限があります。その2校を新築、あるいは大規模改修をしてきちんと直した場合に、生徒の今後の推移を見たときに、費用対効果という言い方は教育に対して失礼な言い方かもしれませんが、2校を

このまま今後学校として維持できるのか、新しく2つの学校を建てて良いのだろうかという疑問があります。生徒の減少と学校の施設が古くなっているという2つの要因から、今教育委員会としては今後の中学校の将来の姿をしっかりと定めて、考えて、決めて、それに向けた整備を進めなければいけないというのが、今回の学校の再編整備に動いた最初のスタートであります。それと併せて、小学校もそれぞれ古くなってきています。新しい学校もありますが古くなってきています。小学校も併せて一緒に考えていこうというのが、今回の中学校と小学校について教育委員会がいろいろと検討してきた内容であります。次の3ページの中学校をどのように再編するのか、これは先ほどもお話ししたように不動堂中学校、小牛田中学校、南郷中学校の3つの中学校を、仮称として美里中学校としていますがこの1校にしてはどうかという考えです。3校を1校に再編することを早期に取り組み生徒の学習環境を整備していくべきというのが教育委員会の現在の考えであります。時期は33年4月開校を一つの目標としたいという考えです。次に4ページ、5ページ③、④の小学校の方に入らせていただきます。小学校の方につきましても先ほどお話ししましたが、中学校の再編を考える場合、小学校の将来的なビジョンをしっかりと持った上で中学校を再編するべきであろうと。昨日の会場でも小中一貫校とかいろいろな考え方の意見が出されました。そういった中学校の再編だけでは終わらない部分もありますので、小学校の再編も含めて考えていくということです。ここには複数クラス、学級替えをしたいと考えを書いておりますが、これについては昨日の会場でもいろいろな意見を出していただきました。本日も皆様の御意見をお聴きできればと思います。それから④はどのように再編をするのか、こちらの方についても昨日の会場でいろいろな意見を出していただきました。先ほどお話ししたように中学校区単位で1つずつに再編をして、その後1つに再編をしたい考えです。時期ですが、これについては皆様にお配りしました平成33年までの児童数の推移を書いてございます。しかし、この段階では大きな減少はないのですが、その後の推移を見ながら決めて行っても良いのではないかと考えています。比較をすれば小学校の方は中学校よりは時期的に遅れても良いのではないかと考えています。これから32年度まで5年間くらいかけて検討を重ねていって、そして取組については33年度以降の取組となる考えであります。これについても皆様から忌憚のない御意見をお聞かせください。次に6ページであります。費用はいくらかかるのかというところです。これから学校再編を進める場合には、その再編する内容によっても変わってきますし、再編の方法、今ある学校を大規模改修して活用していくのか、あるいは新しく学校を建てるのか、新しく用地を求めて学校を建てるのか、今の学校敷地に建てるのか、いろいろな方法によって事業費が変わってくると思います。これについて、教育委員会としましては、まだ積算といえますか、ちゃんとした調査は行っておりません。今後、専門の業者をお願いをしてですね、今ある校舎を大規模改修して長寿命化を図れるのか、あるいは図る場合には大規模改修の事業費にどれくらいかかるのか、あるいは新築の場合は近隣で最近建てた事例からある程度の事業費が何十億円という大ざっぱな事業費ですがそれは括めますので、それらと専門業者に見ていただく大規模改修の費用と時

間的なものを比べながら、比較しなければいけないと思っています。今回、昨日から始まった皆様から御意見をお聴きする会をスタートにして、教育委員会のこうした考えに対する皆さんの御意見を聴きながら、そして同時に、そういった詳細な調査を進めてまいります。その結果をまた皆様にお伝えをしながら教育委員会の考えを、いろいろな案を皆さんと練っていききたいという考えです。次の⑥に入りますが、9月には各学校、小学校、中学校のPTAの皆さんにお願いをして保護者、父兄の方々と意見交換会を何回か開催しようと考えています。その後、教育委員会としてもいろいろと調査をして、先ほどもお話ししましたようにいろいろなデータが出たら、また、いろいろな考え方が出てきた都度、こうして皆様のところにお邪魔をして、意見交換をしながら、きちっとしたものを作っていきたいと考えています。この⑥の資料には1月に第2回の住民説明会とございますが、第2回の住民皆様との意見交換会がもっと早まって、遅くとも1月にはまた行いたいという考えであります。その前にもお邪魔をして意見交換会を行うようになるかもしれません。そういった考えで、今回23日から始まりました住民皆様との意見交換会であります。忌憚のないご意見を出していただければと思います。よろしくお願ひします。添付の資料について説明します。後ろに2枚の資料がありますが、最初は別紙資料の児童生徒数の現状と推計で、この資料につきましては中学校の平成28年、現在の各中学校、各学年別の生徒数と、再編する目標であります33年度の時の推計の生徒数を書いています。そしてその下には、それを30人未満学級でもっていった場合にどのようなかを書いています。線を引いた下の表については各中学校の各部活動の部員数を書いています。その裏につきましては、総合計画が4月から新しく作られましたが、そちらの方で行った人口推計から拾って児童生徒数のそれぞれについて小牛田地域、南郷地域の推計をデータ上の推計から引っぱっています。ここの総合計画で行っている人口推計は、これから町の定住化を図り、少子化対策をいろいろな面で図って行って目標人口というものを設定しています。その目標人口に沿った推計でありますので、この目標を達成した場合の人口推計でありまして、こうしたものを使って児童生徒数を推計しています。それから最後には、先ほどお話ししました学校施設の老朽化の現状ということで、小学校6校と中学校3校の建設年と建設してから何年経っているかと、それから敷地面積、延べ床面積、そして右側にCRとあるのはクラスルームで普通教室の数であります。これらの資料をこれからの学校再編を考える上で、資料の一つとして参考にしていただければと考えています。以上であります。

《課長補佐（早坂）》

ただ今、学校再編の説明ということで概要を説明いたしました。ただいまの説明だけですがわかるということではないと思います。質問、御意見等を頂戴したいと思ひますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。質問、御意見等ございませんでしょうか。

《男性》

地域の共同作業で地域住民が集まった時に学校再編の話題が当然に出た。中学校が一枚になる、小学校が一枚になる、このことだけが先走っている。こういうチラシを出せば当然に

活字の大きいところしか住民は見ない。学校が地域からなくなるのかというのが全体の中の地域住民の意見だった。地域、地域の何か所で住民の意見を聴いてきたが、学校がなくなる、ということが一人走りしている。こういうことが先走りしていながら、その後に意見を聴こうということなのか、手順としてどうなのか疑問を感じた。

《教育長（佐々木）》

住民の方にどのようにお知らせをしようかと教育委員会でもだいぶ協議してきました。これを広報紙にもこのまま載せましたが、あまり詳しく書かないで大きく示して、これに基づいて多くの住民の方、保護者の方に集まっていたきたいという願いがありました。それが今言われた（指摘のあった）ように一校になるんだということだけが先走りしてしまったようですが、教育委員会としてはできる限り多くの方々に来ていただきたいということで、これだけで読み取られては困るので、ぜひ会場に来ていただき、たたき台について説明をお聞ききしていただき、意見をいただきたいという考えでした。7月1日の広報紙に掲載して、さらに、資料を各会場に何部かを置かせていただき、そして幼稚園、小学校、中学校のお子さんを通して時期を見計らって保護者の方へお渡しをしております。そのように取られてしまったということであれば、今後お知らせする際には十分その辺を踏まえて行っていかなければならないと思いました。

《男性》

涌谷町が先んじて学校統合を実施してきたと私は記憶している。涌谷町で再編した後によって、どのようなことが学校、それから子供たちに不都合などが発生したのかを私たちは考えるべきではないかと思う。危惧する部分というものが、隣の町が大丈夫だったからと我々も思うのか、いやかなりの問題だと。このことは市町村の合併問題ともかなり影響している、大崎市がこれだけ大きくなったが大きいことが良いことだという地域づくりの考え方、しかし実際そうだったのかという疑問がある。こういうことからすると、籠岳中学校が涌谷中学校と統合したことによってどのような問題があったのか教育委員会としてどのように捉えているのかをお聞かせいただきたい。

《教育長（佐々木）》

学校にもお邪魔をしていろいろと内容をお聞きしてきました。教育長同士でも情報を聞いております。涌谷中学校、統合して2年目を迎えますが、籠岳中が60人から70人くらいの規模で涌谷の中学校と一緒にりましたが、現在生徒の様子はどうかと尋ねましたところ、少人数で涌谷中学校に来て、遠慮するとか気を使うとか、籠岳から来た子どもたちは、そのような様子がみられませんかということでした。のびのびという表現をしていたと記憶しておりますが。学級数そのものは（統合によって）変わりません。60～70人を3学年に分けますと、一学年当たり20人程度が増えるだけで、学級の数も3学級から5学級に増えたとか、そのようなことはないようです。そのほか、生徒会活動の様子や部活動の様子等々を聞きました。1年目は、生徒会の役員は籠岳中の役員をそのまま涌谷中学校の役員として受け入れたようです。今年は2年目ですので新たに全部、ごっちゃ混ぜにして生徒会の

役員を選出し運営しているとのこと。そのような状況でありまして、統合したことによって不登校が増えたとか、あるいはいろいろな生徒指導上の問題が多く発生したとかそのようなことはないようであります。それから保護者とか地域の方々の学校に対する要望やご意見等はどうですかとお尋ねしたところ、特に大きな要望、ご意見、問題等はないとうかがっています。それから、統合に至るまでのいろいろな経緯については、次長が直接教育委員会にお邪魔をして確認をしておりますので、その概要については次長から説明します。

《教育次長（須田）》

私の方は行政サイド、役場の職員同士でいろいろとお話を聞いてきましたのでお話をさせていただきます。涌谷町は、幼稚園、小学校、中学校の再編計画を平成15年から取り組んで、来年の春に、前の籠岳中学校の校舎に小里小学校と籠岳小学校の児童が入って完成するということでした。かれこれ、10数年の期間、本来は10年くらいで完成する予定だったようですが、大震災の影響で数年間延びただと思います。ここまで来るまでに何度も何度も住民の皆さんの意見交換を行ったようです。涌谷町にアドバイスを受ける以前のことですが、将来の町の姿を決める、とても大きな問題であるのでしっかりと住民の皆さんの意見を聴きながら時間をかけて進めていかなければならないと自戒しているところです。そして最終的には、皆さんに統合に対する同意をもらった後は、クラスがどのようになるのか具体的な話が多く出されるとのことでした。特に、通学のためのスクールバスのことなどは、走るコースや停まる場所など細かいところまで要望が出され、行政側の考えと保護者の考えをすり合わせていったとのこと。このように、詳細な部分まで住民の意見を聴きながら一つひとつを決めていかなければ事は進まないとのことでした。今日の午前中の会場でも出ましたが、これからいろいろな話を進めて統合の形を決めていくわけですが、何度も何度も話し合いを続けながら進めていかなければならないと、涌谷町の担当の職員の方々から話を聞いてきてそう思っています。

《男性》

合併の時には施設の統廃合についての計画はまったく無かったのです。町の計画では平成19年度に合併施設の統合を決めたいと書いてありますけれど、それはずれ込むことは当然あるのですが、教育施設の再編整備計画策定審議会をつくって行うとあるのですけれども今までの経過ですね、これからの教育委員会としてのスケジュールですね。それから議会の人たちは別に対応している。我々は最初聞いただけで意見を言えといわれても中々言えないです。これまでの経過と今後のスケジュール、議会の対応はどのように対応されているのかを聴きたい。

《教育長（佐々木）》

これまでの経過について大まかにお伝えします。教育委員会の定例会で学校教育環境整備の必要性について協議をしたのが平成24年4月であります。それで学校再編も児童生徒の減少等々、それからハード面の問題、生徒の目線で再編が必要ではないかという考えに立て協議をしました。今日お話ししたから明日すぐにできるということではないという内容

でありまして、できるだけ早めにということで24年4月に協議をし、そのために美里町学校教育環境審議会というものを立ち上げましょうと、そのためには条例をつくり議会にお願いをしてお認めいただき、24年8月に学校教育環境審議会、関係方面の方々、町民の方々も含めて審議会を開催し、教育委員会で学校配置のための適正規模、適正配置、通学の問題等々、5点ほどを諮問しまして、審議を2年ほどかかってやっていただきました。そして、その審議会から答申を26年の3月に答申をいただき、その後26年の4月から毎回ではありませんが、教育委員会の定例会でどのように進めていきたいと思いますか、ということでも再編ビジョン、答申を受けて教育委員会としての学校再編にかかるビジョン、基本構想ですか、そういうものを策定し、その次はそのビジョンを基に再編計画を立て実施にもっていきましょうという大きな道筋を考えさせていただきました。それで平成27年の4月から毎月教育委員会の定例会でこのことについて継続協議ということでも議論をさせていただき、去年の8月にはビジョンがある程度できあがりまして、これを基に住民の方々にそのビジョンについて、どう思いますかと意見交換会を6回ほどやらせていただきました。もちろん、話は前後しますが、環境審議会から答申を受けた後に幼小中の保護者の皆様、教職員の皆様に簡単なアンケート、意識調査などもやっております。去年の4月から継続協議を行ってきて、今年6月にいろいろと手続きを経てビジョンの案という部分を取ることができました。再編ビジョンを関連に基本構想を策定し、さあ、それでは、再編計画をどのようにしましょうかということでも、本日に至ったわけでありまして、この説明会資料はそういった経緯を経て、再編ビジョンに基づいての資料でございます。あくまでもこれは教育委員会としての考え方を示したものでありまして、決定ではございません。何も無い状態で皆さんからご意見をお聞きするというのは、再編ビジョンではよかったです。再編計画ではこういう案ではいかがでしょうかと、いろいろご意見を聴いて、また教育委員会で協議をし、皆さんと相談をしながら方向づけをしたいと考えています。今日で5会場目です、来週土曜日には南郷地区で開催させていただきますが、今後のことはそういう状況であります。

《男性》

今年の1月か2月に説明会を開いていますよね。子供たちの減る状況を示されて、説明について私は駅東で聞いたのですが、あまり人が少なかったようですね、それでこれが2回目なのですか。

《教育長（佐々木）》

去年の8月と11月、3回ずつやっています。基本構想について意見をお聞きし、その後パブリックコメントも実施して、修正するところは修正をして今年の6月の教育委員会で決定したということです。そして今日の段階に進めたわけです。

《男性》

議会の方の取組状況はどうですか。議会の方でもそういったことに関心を持っているのではないですか。

《教育長（佐々木）》

全員協議会の開催をお願いして、今日の説明会の前に議会の議員の皆様へこういう考え方で住民の皆様へ説明会を実施したいと考えていると、内容についてもご説明申し上げ、いろいろのご意見等も沢山いただいております。

《男性》

参考までにお聞きしますが、今日までの4回開催した各会場の参集状況を教えていただけないか。

《課長補佐（早坂）》

1回目、昨日10時からの本小牛田コミュニティセンターは一般の方で21人。2回目、14時から北浦コミュニティセンターは、13人。3回目、昨晚の中塚コミュニティセンターは、28人。4回目、今日の午前中に実施した駅東地域交流センターは42人でした。

《男性》

こうした人数は予想して人数に比べてどう考えていますか。多いとか、少ないとか。

《教育次長（須田）》

予想している人数というよりは、できるだけ1人でも多くの人数ということで考えていました。これまで120人余りになりますが、これから南郷地区で開催しても全町民に対する比率は相当に小さいものにすぎません。ですので、こうした住民の皆さんとの意見交換の場はもちろん、先ほどもお話ししたように学校の一室をお借りして保護者の皆さんとも話し合いを持たなければならぬと思います。また、地域単位ではなくサークルなどのような団体単位でも意見交換が必要ではないかと思っております。今回の説明会だけで皆さんの意見をお聞きする機会を多く作っていかねばならないと考えています。決して今回の説明会ですべて意見を聴くという考えではありませんのでよろしくお願いします。

《男性》

仮に参加者が少ないと判断されている場合は、その原因は何を考えていますか、教育委員会として。

《教育次長（須田）》

いろいろな要素があるかと思いますが、今の思い付きだけではなささせていただきます。先ほどお話しがあったように、既に決まったことを押し付けられるような形で呼びかけてきたことが一つの問題であったのではないかと、これからは意見を聴いていくという姿勢をもっと強く出してはたらきかけていかねばならないと思います。それから、今回は幼稚園、小学生、中学生の園児、児童、生徒に配布していますが、兄弟もありますので全体で1800世帯の家庭ぐらいには周知できましたが、その他の家庭、町内には9500余の世帯があります。園児、児童、生徒のいない家庭には7月1日の広報の記事以外に周知する手段がなかったことから、このようなことがあるということを知らない家庭が多かったのではないのでしょうか。これまで、3月までは毎月1日のほかに15日にも区長さんを通して配布物を配っていただいたが、今年の4月からは1日だけになりました。7月1日の広報に掲載したものでも期間が過ぎてしまうと、熱が冷めるといいますか、又は忘れてしまったりし

てその効果はかなり小さくなっています。そうした周知の面で不十分であったことも原因ではないかと考えています。

《教育長（佐々木）》

補足になりますが、教育委員会でもできるだけ多くの方においでいただきたく、例えば6月26日に町P連のバレーボール大会がトレセンであって300人くらいが集まりました。その時にこのチラシを配布させていただき、また、私が挨拶する場があったものですからその中で参加者に30秒程度、こういうものがありますのでお誘い合わせのうえおいでくださるようお話をさせていただき、また、区長会定例会などで区長さん方に大変迷惑をおかけしているわけですが是非声掛けをお願いしますといったこと、それから防災無線を使わせていただき、その都度防災無線で町民の方々にお伝えをしたと、そういった方法などを取らせていただき、できる限り努力したつもりではありますが、内容も含めてまだまだ足りないのかと思っています。

《男性》

素朴な疑問ですが、33年4月の開校に間に合いますか。

《教育次長（須田）》

33年4月の開校まで、今年度合わせて5年間です。そこまでにクリアしなければならないハードルが3つあると思います。まずは財政の問題、もう一つは仮に新しく土地を取得する場合は土地の問題、現在町として3ヘクタール以上の空き地を所有していませんので、新たにお譲りいただくこととなります。お譲りいただくとしてもこうした土地柄から水田になると思います。そうすると農業振興法の規制がかかってくるのでその解除のための手続が必要になってきます。それから3つ目には、こうした住民の皆さんに説明をしながらコンセンサス（同意）を得ていく作業だと思います。それで、土地の問題ですが、一番時間のかかるケースとして新たに用地を取得するケースを考えて必要な手続上の調査を行っていますが、早くて最短で33年4月です。それから財政の問題についても、最短で33年4月です。といいますのは、町の単独で行う事業ではありませんので、文部科学省から補助金をもらって行うこととなります。その比率は全体事業の2割程度ですが事業費全体が大きいものですから、この補助金を利用しないわけにはいきません。しかし、今の文部科学省の学校建設の補助金の申請状況は今まで以上に多くなってきています。文部科学省が確保した予算に対して2倍の申請があるようで、町が補助金を申請したからと言ってすぐに採択されるとは限りません。こちらの方もかなり高いハードルだと思います。3つ目の住民皆さんの意見の集約についても、教育委員会はごり押ししていく考えはありませんので、十分に時間をかけて話し合いを持っていきたいと思っています。これら3つのハードルをきれいに越えることができ、はじめて33年4月の開校ができると考えています。

《男性》

それは納得でない。33年にはできない。できると思いますか。

《男性》

学校の再編が児童生徒の数が少ないからという理由だけでまとめようとしているのではなくて、町の財政も厳しいから、生徒も少ないから併せて一つにまとめようとする発想はなかったのですか。費用対効果の問題です。今のかかっている経費と中学校3校を1校にした時の費用対効果は検討されたと思いますが、その辺のところはどうですか。

《教育長（佐々木）》

学校再編ビジョンを作成するときに私たちが一番優先的に考えたのは、子供の教育であります。だんだん人数が減ってくる。クラスの人数、小学校なんかも特にそうですが、中学校も200人台、それから100人台と、生徒数の多い方がいろいろな意味で生徒が多くの方とコミュニケーションをはかる、いろいろな人間関係が複雑であります。そういったことを経験させてですね、社会性を少しでも養っていききたい。あるいは学校生活の中で切磋琢磨していい意味での競い合いをして学力の向上とか、将来世の中に出た場合の資質といいますかそういったものをより多く身につけさせるためには、教育の効果を期待するためにはどうしたらよいのか、そういった目線で協議を、そういったソフト面を優先的に協議させていただきました。もちろん、お金の問題も、財政の問題も絡んできます。その部分については教育委員会として財源についてどうのこうのと言えない立場でありますので、教育委員会として方針がある程度決まれば、町民の皆様から、「よし、やれ」と言われれば、もちろん財政面も皆さんにもご心配されているかと思いますが、財政、お金があつて子どもではなくて、子どもの教育ということを起点に、順番的に協議させていただきました。財源について次長から補足があればお願いします。

《教育次長（須田）》

現在の9校から2校になったから経費がいくら減るということも必要です。しかし、先ほどもお話しましたように、2つの中学校の校舎と一部の小学校の校舎が古くなってきているのでそれに対して何とかしなければならぬ、これらの施設が今後使用していくためにどれくらいの費用がかかるのか、それはどれくらい壊れていくのか、どれくらい古くなって修繕が必要になるかは状況によって変わってきますので、それらを調べていかなければなりません。こうした校舎が古くなってきているのでなんとかしなければならぬというのが問題のはじまりです。例えば、3校の中学校を1校にすることによって毎年の運営経費が1億円安くなるから、30億円で1校にしても30年間でペイできるという発想はありません。我々は、この古くなっていく校舎をなんとかしなければならぬという思いからです。

《男性》

再編した場合の空いた建物、跡地についてはどう考えているのか。まったく、これからの話ですか。こちらは教育現場でそれは役場の仕事だから役場にやらせる、議会の仕事だから議会に任せるということですか。

《教育次長（須田）》

どのような再編の内容になるのか、また、跡地を利用するのか、新しく土地を取得するのかによってもいろいろ変わってきます。仮に再編によって現在の土地が空いた場合には、あつ

ちの仕事だからあっちにやれとかそのようなことではありません。町の財産権というのは町長しか持っていません。教育委員会としては町長にお返しすることになります。そこで町長は教育委員会を含めて、町民の皆さんと協議をして決めていくことと思います。まだ、再編の姿も決まっていない中で、建物、跡地の利用については教育委員会では検討していません。

《男性》

教職員の再編後の処遇についてはどうなるのですか。

《教育長（佐々木）》

統合した場合、学校が大きくなれば当然教職員の数も増えます。基本的には人事のことは県の教育委員会ですが、町の教育委員会としてはできるだけ継続してそのまま再編後の学校の教育に努めていただきたいと思います。30人未満学級をめざしていますので、国、県の定数よりもかなりの人数が多くなります。むしろ不足するのではないかと、そちらの方が心配しています。県から配置された教職員の足りない分については町の経費でお願いをしてやらなくてはいけない状況になる見込みであります。ですから、むしろ足りなくなるのではないかという見通しであります。

《女性》

今、日本である意味でのバリアフリーという流れ、地域で障害者や高齢者が共に地域で過ごすといった、地域社会の中で赤ちゃんを育てていくというか、地域コミュニティが大切にされているのが現在の日本の社会に流れではないかと私は田舎に住んでいて思います。今回こうした広域に合併していくことがこうしたことに逆行しているような気がします。小学生が登下校で地域の大人から声をかけてもらう、地域の大人に「ただいま」と挨拶をする、そういった地域の教育力がすごく大事だと思うのです。合併することによってそういった良さが消えてしまうような気がしています。次に、北中の問題です。かなり昔の事ですが、大崎市の中学校のこの辺では初めての学校の合併の問題がありました。6つの小学校が1つの中学校に統合されるのですが、いろんな問題点がありました。生徒指導もそうですが、スクールバスの距離が遠くなったとの話も聞いています。そういったデメリット、前例があることは教育委員の皆さんは掌握されていると思いますが、そういう点どうなっているのでしょうか。それから中塚小学校におきまして、以前北浦小学校と合併しよう、小牛田小学校は老朽化しているのでやめようということになりましたよね、でもその後、中塚のPTAとか住民は反対運動して署名運動して、やはり町長さんをお願いして今の地に新しい学校を建設できました。それで地域の子供たちが元気に通っているわけですが、こうしたこれまでに経緯があるわけですね、そういった大事なのは地域の住民ですよ、いっぱいひとからみにお金がないから、美里小学校一つでいいんじゃないか、というのはあまりにも机上の計算ではないかなと、なんか子どもがかわいそうだなって、感じました。それから魅力的な環境づくりとして、例えばですが中塚小学校なんか素敵な校舎ですよ、地域の人々が自慢できるような、生徒や教師もそうですけれども、素敵な環境の中で、むしろ、魅力的な小じんまりとし

た学校の方がうちの子はいいわって、マンモス校に入れるのはいやだわって、魅力的な中塚小学校がいいわって、若い夫婦を呼ぶというようにもっと魅力的な方策はないのでしょうか。学校がなくなると、例えば青生小学校が無くなることによって、若い夫婦は来ないですよ。私の娘だって来ないと思います。魅力がないから。だから、地域の小学校があるということを積極的にアピールして今後も青生小学校を通して若い人もお年寄りも心をつかんでいくという視点も大事ではないかなあとと思います。

《教育長（佐々木）》

子どもたちが地域で育っています。それから学校そのものも地域に支えられておかげさまでなんとかがんばっておられると、それは常々教育委員会としてもたいへん感謝しております。ただ、再編したことによって、地域とのコミュニケーションがすっかり無くなるということはどうなのか、その辺を教育委員会でも話し合っていますが、統合して例えば小学校の場合、一学年一学級から2学級になってクラス替えできる規模になって、子どもたち自身の成長を考えた場合にどっちを教育委員会として環境整備する必要があるのかという、そういった視点で今回の再編等々を協議させていただきました。もちろん、これは地域の方々の理解を求めながら、いただきながらやっていかなければならないという考えは強く持っていますので、地域を無視して無理やり再編するとか、そういった考えはありませんので、ぜひいろいろとご意見をお聞かせいただきたく思います。

《男性》

一覧表の小学校が一校になった時の平成33年の児童数は1045人となっています。右に学級数が43となっていますが、統合した場合の実学級数はいくらになるのか。そこは計算していますか。

《教育長（佐々木）》

その資料はあることはあるが今日はそこまで持ってきていません。これは学校の児童数がどのようになっているのかを聞かれたものですから、急きょ手元にあった資料を配布させていただきました。

《男性》

まだ、計算まではしていないということですか。

《教育長（佐々木）》

今日は資料としては持ってきていません。中学校の方は持ってきましたが。

《男性》

この中学校の方も少し数値が違いますよね。平成33年の生徒数は同じですが30人未満学級のクラス数と一覧表のクラス数が少し違っていますが、何か意味があるのですか。

《教育長（佐々木）》

こちらは各中学校からあがってきた生徒数でありまして、こちらは少し古いのですが役場の何課ですかね、住民の台帳に基づいておおよその数でありまして、また転出入等もありますことから数字のずれが生じております。

《男性》

そうすると、小学校の場合だと一校になった場合の実態はつかんでいないということですね。

《教育長（佐々木）》

すぐにシミュレーションは出ますが、今日はそこまで持ってきていません。

《男性》

学級によっては校舎の規模も違ってくると思うので。

《教育長（佐々木）》

先ほども申し上げましたように、全部複数学級あるのは不動堂小学校だけであり、あとは南郷小学校と小牛田小学校で一部が複数学級です。やがて、平成33年には不動堂小学校以外はすべて一学年一学級になります。10人未満も出てきそうですし、10人から20人くらいですかね、そういった状況です。

《男性》

6ページ、一番下のところで、来年1月に第2回の説明会を開催、平成29年3月までに再編の具体的な内容を決定します、と書いてあります。決定できますか。今日、ここに集まった人は22人いますが、青生の区長会で各地区から3人ずつ参加をしようと、たぶんこういうことだろうと、5名や3名で住民説明会終わりましたということで整理されたのではとんでもない。さっき教育長が言われているように、多くの人に参加して、多くの意見を出して、そして将来構想を決めようということからすれば、参加を促す部分というのが足りなかったのではないかと。私達区長会でもできるだけ多くの参加をさせようと、3人ずつ来て5地区で15、わたしの地区からは7名、議員さんが3名いるので、実質的に聴こうとか語ろうとして集まってきたことからすると、若干違うのではないかと。1月に開催して2回も住民説明会を開催しましたよ、それで3月で決定するというのは、それは違うのではないかと。どうですか。もっと、多くの人を集めて、話し合っって語り合おうとする施策をもっとやるべきではないのか。決して協力をしないというわけではないので、ぜひ、やってください。

《男性》

1月に第2回の説明会があるということですがけれども、具体的な内容はどのようなことを考えているのか。先ほどのバスの問題など通学手段なんかも入ってくるのかと思いますけれども。今日原案は中学校を一校にするということですよ。そういうことで今日の説明会が開かれていると思うのです。具体的な内容とはどういうことを想定しているのか。一校にしますよっていうのは今の説明会ですよ。そういう問題はおかしいのではないかと。意見も出ていますけれども、そういうことを踏まえて原案をつくるのか。町で決まったことを我々に対して流していくのか。第2回でも人数集まりませんから、町政懇談会だって6名ですから、駅東では。そんな程度しか集まっていませんからね、それで町民の意向を聞いて原案をつくりましたという形になると、「じゃ、こんなの行ってもしょうがない」と思っって来ないわけですよ。だから住民の意向をよく聞いてですね、丁寧な説明をして、吸い上げ

て原案を作っていないと。審議会つくってやっていると聞きました。議会でもやっているようですからね。じゃ、我々は任せておきましょうと、形だけ開いてですね、第3回なら3回開きましたということで進めるのかですね。本当に住民の意向を聴くならばもっと丁寧に説明をしていただかないとね、せっかく無理してきても、あまり反映されないのなら次は来ないよ。「行ってもしょうがない」となっていくのです。具体的にどの程度まで想定しているのですか。

《教育次長（須田）》

正直申し上げまして、今回の説明会に臨むにあたりまして、私はじめ教育委員会として（認識が）足りなかったということです。皆さんの意見を聴いているうちに、こんな簡単なことでは進まないということを実感しております。ここに1月に第2回を開催して3月に決定するという計画を作りましたが、この計画通りに進められるか、進められないか、自信はあるのかと聞かれましたが、今は3月までの中で何度も意見交換を重ねながら決めていきたいという考えはわかりません。ただ、2回目が一月だというのは、その前にも何度も回数を重ねて、この1月というのは外してください。2回、3回、4回と回数を重ねながら3月までにはなんとかまとめていきたいというのは今でも思っています。ただし、あと1回程度でできるものではないという、今日区長さん方からご指摘をいただいた通りでありまして、これから半年以上ございますが、今後じっくりと時間をかけて話し合いを行っていきたいと思います。当初、1月の説明会では、事業費の積算が出て、新築がよいのか大規模改修して今の校舎を使うのか、そうした手法を含めて説明に回ろうかと考えましたが、手法の前にどのような内容にするのかについてももっともっと詰めなければなりませんので、2回目の説明会というのはその前にもっともっと話し合いを持たなければならないのでこの計画は変わってくると思います。

《男性》

南郷の練牛小学校が南郷小学校に合併するときに練牛の住民は署名運動などをして、とても反対したと思います。その頃、練牛に入学する児童が2、3人くらいしかいなかったと思うのですが、1学年の入学生が少ないわけですから、やっぱり仕方がないかなといった形で合併していったわけですが、今の説明だと、資料だと、青生小学校が9名ですよ、平成33年の4月には9名ですね、もっと減る可能性があるわけです。そしたらいつまでも小学校2つでいいとか、3つでいいとかということは難しくなってくるわけですよ。去年の6月とか10月だったか説明を受けたのは、今の中学校が古くて建替えなければならない、耐震して間もないですからね、だから多額のお金を出して2つをつくるよりは1つにするという説明もあったかと思えます。そのようなふうになるのかなあと、会場の雰囲気では思っていました。これはこれでいいですけども、聞いていない人が結構多いですからね。そういう住民の方たちに説明をした方が良くと思いますね。

《課長補佐（早坂）》

練牛小学校が南郷小学校に統合する前、合併直後ですね、私は小牛田の職員だったのですが、

南郷の方に行っておりました。合併して直ぐですが教育委員会は小牛田庁舎にあったものですから南郷支所の役割を改善センターの方で行っていました。その時にあったことは、練牛小学校に新生で入学されるお子さんに、「練牛小学校です」と入学する学校を指定しても、「南郷小学校に入りたから指定を変更してください」という親の方からの申出があって南郷小学校に変更する許可を出すという作業をした記憶があります。それが1人、2人ではなくて何人かいらっしゃって、理由を聞くと、「少しでも児童の多い南郷小学校に入って皆と一緒に勉強をさせたいという話をされた記憶があります。だから、私は青生小学校を統合しなさいとかそういうことではなくて、あくまでもそういったこともあったということでお話をさせていただきました。そのほか何か、御意見、御質問はございませんでしょうか。それではですね、皆様からの御意見をいっぱい聴きたいところでありますが、本日に限らず今後も、教育次長からもお話しがありましたように何回か皆様の方に御意見をお聴きする機会を設けますので、私たちの方にも是非助けていただいて、次回以降もぜひご出席していただければと思います。これをもちまして閉じたいと思います。閉会に当たりまして佐々木教育長から閉会の挨拶をさせていただきます。

《教育長（佐々木）》

それでは一言、御挨拶を申し上げます。貴重な日曜日の午後ですね、学校再編説明会に来ていただきまして本当にありがとうございます。5会場目になりますけれども、どの地域の方々も将来を担う子どもたちをどういうふうにしていったら良いのか大変心配いただいていることに教育委員会としても本当にありがたいなと思っております。ですから、そういった子供たちがより成長できるようにさらに皆さんと協議を重ねながら良い方向に持っていきたいという考えはずっと変わりませんので今後ともよろしくお願い申し上げます。なお、来週は南郷地域ですね、3会場あります。そこで御意見を聴いて、そしてそれらを総合的にまとめましてさらに今後の方向を、教育委員会としてはあまり間延びはしたくないのですがそう簡単にはいかないよと今日この会場で強く言われた気がしております。今後ともよろしくお願い申し上げます。今日はありがとうございました。